

ライフル照準器、中独に不正輸出容疑 メーカー書類送検

2013年2月15日 0:16

保存



天体望遠鏡などの製造で知られる光学機器メーカー、ビクセン（埼玉県所沢市）が経済産業相の許可を得ずにライフル銃のスコープ（照準器）を中国とドイツに不正輸出したとして、埼玉県警は14日、法人としての同社といずれも60代の同社役員と元社員を外為法違反（無許可輸出）の疑いで書類送検した。捜査関係者への取材で分かった。

捜査関係者によると、送検容疑は2008年12月にドイツに、09年7月には中国に、計約10個のライフルのスコープを経産相の許可なく輸出した疑い。ライフルスコープは武器の付属品と位置付けられている。

同社はホームページで「サンプル品の輸出で正しい法的手続きを行っていなかった」とし、正規販売品については許可を得ていると釈明している。県警は昨年11月、同社を捜索していた。〔共同〕

すべての記事が読み放題
有料会員が初回 1 カ月無料

有料会員に登録する

無料会員に登録する

有料会員限定

キーワード登録であなたの
重要なニュースを
ハイライト